

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 6 月 4 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	浅見真生

1. 派遣国・場所
鹿児島県屋久島
2. 研究課題名
屋久島実習
3. 派遣期間
平成 28 年 5 月 21 日 ~ 平成 28 年 5 月 27 日 (7日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者
半谷吾郎先生、揚妻直樹先生、屋久島観察所 (京都大学野生動物研究センター)
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果: 長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>本実習では、約 30 名の学生を「イチジク・イチジクコバチ」「シカ」「サル」を観察・実験対象とする 3 グループに分けそれぞれで約 1 週間の実習が行われた。報告者はシカ班に属し、その社会行動を観察し観察個体間の血縁関係をあきらかにすること、及び糞からの DNA 採取手法を確立する為に糞の採取を行った。以下、その日程と詳細を記す。</p> <p>[日程]</p> <p>5 月 21 日 愛知県犬山より屋久島への移動、島西部でのヤクザルとヤクシカの観察 5 月 22 日 西部林道にてヤクシカの社会行動を観察・糞からの DNA サンプル採取 5 月 23 日 西部林道にてヤクシカの社会行動を観察・糞からの DNA サンプル採取 5 月 24 日 西部林道にてヤクシカの社会行動を観察・糞からの DNA サンプル採取 5 月 25 日 ラジオテレメトリーを用いた観察個体追跡の体験・糞からの DNA サンプル採取・データ解析 5 月 26 日 成果発表、打ち上げ 5 月 27 日 観察所清掃・白谷雲水峡ハイキング・屋久島から犬山へ</p> <p>今回の実習においてシカ班ではニホンジカの亜種であるヤクシカを対象とし、その行動観察と糞採取を行った。ヤクシカは屋久島及び口永良部島にのみ生息しており、屋久島の急峻な地形と温暖な環境で餌資源が豊富であることから他地域のニホンジカと比較して狭い行動圏を持ち、個体識別されたものや人に慣れた個体もあることから肉眼や双眼鏡を用いた観察が比較的容易と言える。サルを除いた哺乳類における社会行動の研究は少なく、また野生動物から非侵襲的な DNA 資料を採集する手法は今後の野生動物の保全において不可欠である。本実習はそれらを関連付けて行った数少ない研究であり、実践的に学ぶ良い機会となった。</p> <p>行動観察は二人一組で行い一頭を 2 時間観察した。2 分ごとの行動及び、観察中に生じた全ての社会行動を記録する者、観察個体と社会行動が生じた個体の双方から糞を採取する者に分かれ、糞は排泄された直後のものを回収した。DNA サンプルは、糞の表面を lyses buffer に浸した綿棒でこすって回収した。</p> <p>手順としては以上の通りで難しいものではなかったが、観察個体の中には人にあまり慣れていない個体もあり、離れていく (逃げていく) 個体を追跡していくのは非常に困難であった。起伏が多い地点では観察個体を見失ってしまうことも多々あり、先生方のご指導のもとにかにシカの行動に先回りして行動観察を続けるかということ学んだ。山岳部に所属していた経験から山歩きは得意な方だと思っていたが、自分の歩行に集中できる登山が目的の山歩きと、シカのような大型の動く生物を観察しながら音をたてないように道なき斜面を歩くのは全く異なり、どうしたら長時間見逃さずに観察できるかと考えさせられることが多かった。観察中、もっとも良くみられたのが採食行動と付随する反芻であり、ヤクザルが採食中に落した果実に群がる様子やサルの横で休んだりサルがシカの背中に乗る様子も観察され、それらの関係は興味深かった。</p> <p>実習中 30 頭あまりの個体が観察され、それらの糞も合わせて回収された。これらはゲノム実習において解析を行い、個体間の社会行動と合わせて 6 月 7 日の国際セミナーで発表を行うものである。</p>

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

アジア、ブラジルからの留学生との交流は本実習において野生動物の観察とともに最も充実時間であった。英語で話し議論する機会であったのは言うまでもないことであるが、実習の目標を共有し、同じ宿に泊まり食事と一緒にとったことで彼らの文化やキャリア、興味等話すことのできる時間が多く、非常に楽しかった。既に博士号を持っている参加者もあったことから、プレゼンテーションの準備や解析では学ばされることが多かった。



写真1：ヤクザルとヤクシカ



写真2：ヤクシカの骨を洗う



写真3：発信器を付けたヤクシカ

6. その他 (特記事項など)

本実習は、PWS リーディング大学院プログラムの支援によって実施されました。ご指導いただいた、揚妻先生ご夫妻、西川さん、他の先生方、またご協力いただいた皆様に深く感謝いたします。
生、義美さん